

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

かわら版

—第9号—

事務局：京都府文化環境部公営企画課
TEL：075-414-4373 FAX：075-414-5470
e-mail：koei@pref.kyoto.lg.jp
～★ 平成26年10月発行 ★～

琵琶湖・淀川流域図

— 府県界
— 流域界
— 上水供給界



構成団体

- ・三重県地域連携部地域支援課
TEL:059-224-2420
 - ・滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
TEL:077-528-3460
 - ・京都府文化環境部公営企画課
TEL:075-414-4373
 - ・大阪府政策企画部
戦略事業室空港・広域インフラ課
TEL:06-6943-8054
 - ・兵庫県企画県民部エネルギー対策課
TEL:078-362-3057
 - ・奈良県地域振興部地域政策課
TEL:0742-27-8489
- [オブザーバー]
- ・(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
TEL:06-6920-3035

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは■

平成15年3月に京都市等で開催された『第3回世界水フォーラム』を契機に、流域6府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動■

水質や生態系などの水環境保全には、流域での一体的な取り組みが必要であることから、「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」は、府県が連携し、住民・NPOなど多様な主体との協働のもとで進めていくこととしています。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

— URL：<http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html> —

■三重県■ 都市住民との協働による交流活動

～「ふるさとづくり上高尾の会」の取組～

「ふるさとづくり上高尾の会」の主要な活動場所である伊賀市上高尾地区は三重県伊賀市の南端に位置し、大阪湾に流れ込む淀川の最源流部です。

当会では、「限界集落化しつつある上高尾地区を残したい」との思いを原点として、「水で繋がる上流（田舎）と下流（都会）」を活動コンセプトに、顔の見える『つながる』ことのできる関係を淀川流域で作っていきたいと考え、上高尾の魅力を知ってもらう活動に取り組んでいます。

会員は、地元の農家や住民のほか、行政や大学関係者など、取組をサポートする関係機関が参画しています。また、京阪神地区の住民との交流を深めていくなかで、食の安心安全、農環境に意識の高い京阪神の親子を中心に大阪地区に「上高尾サポートの会」が発足しました。

さらに、こんにゃく芋づくりから、加工・販売までを行う6次産業化に向け、藁灰こんにゃく（藁を焼いた灰を灰汁に使い、手で摩り下ろす昔ながらの手作りこんにゃく）づくりにも取り組んでいます。

これからも、当会では、米・野菜づくり、こんにゃく加工、空き家の修繕など、暮らしを体験する周年プログラムに、少人数で継続参加していただく交流をめざします。



田植え作業



大阪にて出張 PR



9月の稲刈り



手作りこんにゃく



古民家：上高尾の家

■滋賀県■ 第15回世界湖沼会議（イタリア）への参加

平成26年（2014年）9月1日～5日の5日間、イタリア共和国ペルージャ市において、ウンブリア科学ミーティング協会と（公財）国際湖沼環境委員会（ILEC）の共催により、第15回世界湖沼会議が開催されました。

昭和59年（1984年）に第1回会議を滋賀県大津市で開催してからちょうど30年を迎えた今回の湖沼会議には、世界の湖沼研究者やNGO、行政関係者等が多数参加し、「湖沼は地球の鏡 ―生態系と人間活動の健やかな調和に向けて―」をテーマに、世界の湖沼問題の解決に向けて様々な議論が行われました。

滋賀県からは、琵琶湖の総合的な保全や生物多様性戦略、水草対策への取組等について、各分科会セッション、本県ブースにおける説明やパンフレット配布等により、世界に向けて広く発信し、情報交換を行いました。

滋賀県が提唱して始まった世界湖沼会議は、世界の湖沼環境問題の解決に向けて貢献し続けています。

【開会式における三日月知事スピーチ】



30周年の節目を迎えた今回の会議に際し、世界湖沼会議の提唱県の知事としてお祝いを述べるとともに、世界の湖沼環境改善のため、世界湖沼会議が果たしてきた役割や貢献を振り返りました。

また、せっけん運動に代表される県民との協働やマザーレイク21計画の推進など、先進的かつ総合的に琵琶湖政策に取り組んでいる本県の環境行政を世界に向けて発信しました。

【県職員による発表】

県職員4名が、琵琶湖や流域における取組などを発表し、世界の湖沼問題の解決に向けて議論を行いました。



【ブース出展】

本県とILECが共同で出展し、琵琶湖行政や水ビジネスの取組、観光面など幅広く情報提供を行いました。



■京都府■ 「いろは呑龍（どんりゅう）トンネル」南幹線の整備について

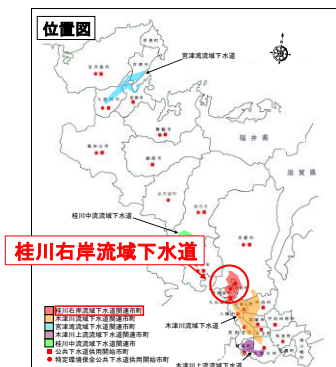
京都市、向日市、長岡京市にまたがる桂川右岸地域の度重なる水害から地域を守るため、京都府では、平成7年度から流域下水道の雨水対策事業として地下トンネル「いろは呑龍トンネル」の整備を進めています。これまで、平成13年度に北幹線第1号管渠、平成23年度に同第2号・第3号管渠の供用を開始し、約10万7千 m^3 （25mプール約360杯分）の貯留能力により、浸水被害の軽減に効果を発揮してきました。

特に、平成25年9月の台風18号、平成26年8月の台風11号では、北幹線の貯留率が100%になるまで雨水を貯留し、府内各地で大きな被害をもたらした台風の豪雨において確実に浸水被害軽減の効果を発揮したことで、改めて雨水対策事業の必要性が認識されるとともに、引き続き、南幹線を含めた全体計画の早期完成への府民の期待が高まってきました。

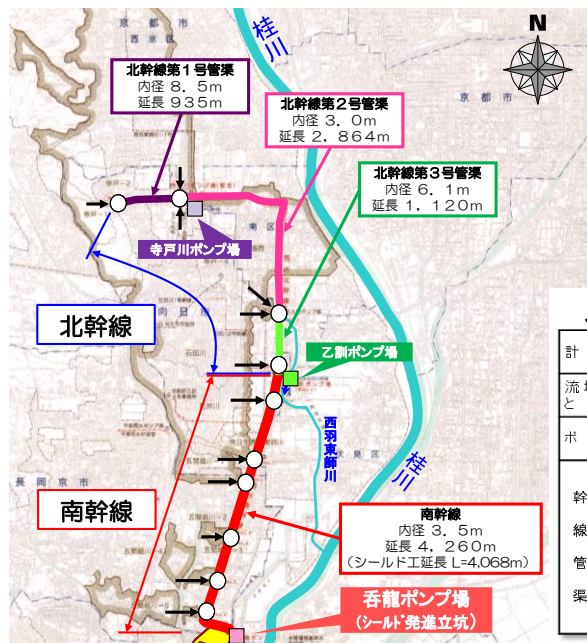
こうした中、平成23年度から調査設計を進めてきた南幹線管渠について、平成25年度に工事着手の運びとなり、平成26年7月に山田知事出席のもとシールド発進立坑工事の起工式を執り行いました。現在は、この工事を本格的に進めているところで、同じく平成26年度中には、いよいよ、延長約4kmのシールドトンネル工事に着手の予定です。

今回整備する南幹線は、供用中の北幹線を南側へ延伸するものですが、対象区域を新たに長岡京市まで拡大するとともに呑龍ポンプ場から桂川へ直接放流が可能となり、雨水トンネル本来の流下機能が発揮されるため、北南幹線を合わせ今までの約2倍（約23万8千 m^3 ）の雨水に対応します。総工費（南幹線）200億円の大工事となりますが、当地域の災害に強く、安心・安全な暮らしを守るまちづくりを支援するため、平成32年度の暫定供用開始、平成35年度の事業完成を目指し事業に取り組みます。

【位置図】



【整備状況】



【北幹線第3号管渠】

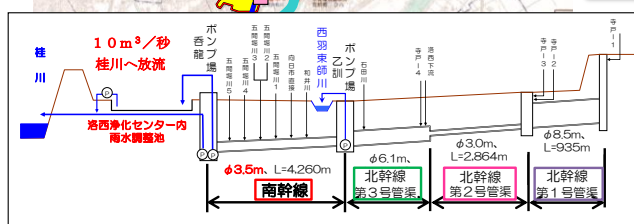


凡例

計画排水区域	
流域関連公共下水道との接続箇所	
ポンプ場	
幹線	北幹線第1号管渠 (供用中)
	北幹線第2号管渠 (供用中)
管渠	北幹線第3号管渠 (供用中)
	南幹線管渠 (事業中)



いろは呑龍トンネル
マスコットキャラクター
呑龍太郎（呑龍くん）



■大阪府■

<恩智川流域における大阪府・流域4市連携の浮遊ゴミ対策について>

(大東市・東大阪市・八尾市・柏原市・大阪府)

河川管理者である大阪府とまちの美化を担う流域4市で、「恩智川クリーン・リバープロジェクト」を立ち上げ、平成25年度より浮遊ゴミの削減に対して流域住民の意識啓発の機会を増やすことで、河川内に集まるゴミを減らす取り組みを行っています。

【これまでに実施した内容（恩智川クリーン・リバープロジェクト）】

○流域住民と行政との課題の共有（ワークショップの開催）

より多くの方々に“恩智川を美しくしたい”想いを広げていくために何ができるか、について、流域住民と行政が共に検討しました。

■会場：流域4市それぞれに設置（延べ20回開催）

■期間：H25.11～H26.3

■参加者数：延べ400人以上

■検討結果：美化に対する啓発活動、子どもを巻き込んだ清掃活動、川の歴史や生き物調べ等

○浮遊ゴミ啓発装置の運用

ポイ捨てによる浮遊ゴミを分かりやすく流域住民に知っていただくため、浮きが付いたロープを河川水面に設置し、ゴミを滞留させています。

東大阪市の加納東公園前や八尾市域、柏原市域の計3箇所に設置し、ゴミの滞留状況をブログ等で公表しています。



○流域一斉美化活動の実施

WSで提案された“やりたいこと”を実践し、効果や課題の検証を行うことを目的として実施しました。

■実施日：H26.3.16

■会場：恩智川沿いの8箇所

■参加者数：約900人

■実施内容：清掃活動に加え、生物調査や演奏会なども実施。



○ゴミマップづくり

沿川住民によるゴミ調査を行い、ゴミの発生状況を地図上で確認し、自ら分析することにより、美化に対する意識の向上につなげます。

<ゴミマップ>



<川の駅はちけんや※ 琵琶湖・淀川流域情報発信>

＝淀川で見・つ・け・た モノ・コト・オモイ＝

「水上さんぽ」チームと「ノルディックウォーク」チームなどが琵琶湖・淀川流域の魅力や課題を伏見（京都府）から八軒家浜（大阪府）まで調査します。調査結果の写真を川の駅はちけんやに展示します。あなたの知らない淀川を発見しよう！

日時：平成26年10月14日（火）から12月8日（月）

（11月4日（火）から11日（火）の期間を除く）

場所：川の駅はちけんや地下1階 にぎわいXing ギャラリー

アクセス：京阪/地下鉄谷町線 天満橋駅17番出口から西へ約200m

料金：無料

※平成21年8月に大川河畔にオープン。レストランや水辺に関する情報発信を行う施設です。



<昨年の調査の様子>

■兵庫県■ 総合治水の取り組みについて

近年、農地や山が開発され、住宅やショッピングセンターができるなど、都市化が進むことで、以前と比べて雨水が早く流れ出るようになり、局所的な大雨の頻発と相まって、各地で浸水被害が増えています。

そのような中、兵庫県では、これまでの河川改修等の「ながす」対策に加え、「ためる」対策や「そなえる」対策を組み合わせ、地域の治水安全度を向上させることが必要と考え、平成24年に全国の都道府県で初めて、「総合治水条例」を制定しました。

条例に基づく雨水貯留施設として指定した県立高校の校庭において、昨年9月の豪雨で「ためる」対策の効果を発揮した事例を紹介します。

位置図

① 県立宝塚東高校

貯留施設の概要

グラウンドとテニスコートに周囲堤を設置し、雨水を一時的に貯留します。

25mプール

- 最大貯留量: 約2,270m³ → **約4杯分に相当**
- 最大貯留水深: 約35cm(グラウンド)
約25cm(テニスコート)

今回豪雨での事業効果

9月の台風18号では、25mプール約3杯分に相当する雨(約1,750m³)を一時的に貯留できました。

豪雨の状況

武庫川では、台風第18号は、平成16年台風第23号以降で最大の洪水でした。

		(単位:mm)	
	観測所	時間最大	24時間最大
平成25年8月豪雨 (8月25日)	伊丹 (伊丹市)	51	130
平成25年台風第18号 (9月15日~16日)	宝塚 (宝塚市)	30	239

貯留状況(宝塚東高校)

平常時

大雨時

※H24年7月の貯留写真

大雨時には、校庭で雨を一時的に貯留します。

② 県立 阪神昆陽高校

貯留施設の概要

グラウンドに周囲堤を設置し、雨水を一時的に貯留します。

25mプール

- 最大貯留量: 約1,130m³ → **約2杯分に相当**
- 最大貯留水深: 約36cm(グラウンド)

今回豪雨での事業効果

8月25日の豪雨では、25mプール約1杯分に相当する雨(約660m³)を一時的に貯留できました。

■奈良県■ 水の週間 親子ダム見学会開催 ～室生ダム・布目ダムと桜井浄水場～

奈良県では、毎年8月第1週の「水の週間」のイベントとして、奈良県民の皆様を対象に、水資源機構と共催でダム見学会を開催しています。

今年は、水循環基本法が成立したことをふまえて、水源地のダム→浄水場→家庭と一連の水のサイクルを学んでもらおうと見学会を企画しました。8月4日（月）に淀川流域にある室生ダム・布目ダムと県水道局桜井浄水場を28名の方々に見学していただきました。浄水場では、室生ダムから導水された原水に異臭味除去のため粉末活性炭が混ぜられ、凝集剤の投入により、濁りを大きい粒子にして沈殿させられた後、砂の層でろ過される浄水の一連の過程とろ過砂を洗浄する作業および中央制御室のモニター画面を見学しました。

続いて室生ダムに移動し、堤体から下をのぞき込むように洪水吐きゲートを見学し、堤体の高さを実感しました。また、ダム湖の水質を改善するために湖上に浮かんでいる深層および浅層曝気設備について説明を受けました。

布目ダムでは、普段は立ち入ることの出来ない堤体内部に入り、涼しさに驚きつつ、少々急でスリリングな階段を下って外へ出るとダムの巨大な堤体が一望でき、皆さん思い思いに記念撮影をしていました。ダムの役割について説明を受けた後は「水質実験」と「利き水」をおこないました。水質実験では、用意した酢水、水道水、洗剤水、ダムの水をPHおよびCODパックテスト（簡易分析）により、色の变化で水質を確認しましたが、色の変わる様子に子供達は歓声を上げていました。利き水では浄水場で汲んできた水と市販のミネラルウォーターなどを飲み比べ、違いを当てるクイズなどで盛り上がりました。

参加者の方々からは様々な質問が飛び出し、浄水場やダムについて高い関心を持って見学会に参加して頂いたことがうかがえました。質問に対しては、所長を始め管理所の皆さんの丁寧な説明で、参加者の方々はダムや水についての理解をより深めて頂いたことと思います。この見学会が、水の大切さを身近に感じ、水のことを考えるきっかけになればと思います。



桜井浄水場の見学



布目ダムの内部の見学



水質実験体験（布目ダム）

当日の様子は、奈良県地域振興部地域政策課のホームページにも掲載しています。

(<http://www.pref.nara.jp/37234.htm>)

■公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構■

子どもたちの水質保全活動への助成をスタートしました

公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構（以下、BYQ）では、「飲める水 遊べる水 辺 次世代に」をテーマに、自主研究や研究助成、広報啓発事業などを通して、琵琶湖・淀川流域とその給水区域の水質保全活動を行っています。これらの取り組みの中から、今年度から新たにスタートした「琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成事業」を紹介します。

この事業は、美しい自然と豊かな水に恵まれた琵琶湖・淀川流域に暮らす子どもたちが、流域の水質保全の現状を理解し、上流から下流までの水環境の適切なあり方を学習することで、将来、水質保全活動の担い手として地域の河川や湖を守り育てていってもらうことを目的に、市民団体や学校が取り組む、子どもたちの「水環境について知り、理解する活動」や「水質の保全・改善に関する活動」に、年間20万円を限度として助成するものです。

初年度となる平成26年度は、12件の活動を採択し、それぞれの団体で特色ある取り組みを進めていただいています。

現在、BYQのホームページにて、これら皆さんの活動状況を「こども水質保全活動レポート」として、順次紹介しています (<http://www.byq.or.jp/kodomo/>)。また、来年度には、成果報告会を計画し、活動の成果を幅広く共有し、新たな取り組みへとつなげていく予定です。

BYQでは、今後ともこうした取り組みにより住民の皆さんや行政とともに潤いのある流域社会を形成していきたいと考えています。



「鞍馬川・長代川の生きもの調査」
市原野子育て支援ネットワーク会議



「木津川・上から下までウォッチングツアー」
伊賀市立長田小学校・伊賀市立柘植小学校

公益財団法人
琵琶湖・淀川水質保全機構
BYQ
LAKE BIWA-YODO RIVER WATER QUALITY PRESERVATION ORGANIZATION

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-2-15 大手前センタービル 4F
TEL (06) 6920-3035 FAX (06)6920-3036 <http://www.byq.or.jp/>

BYQ